

おひさま通信は、おひさま進歩エネルギー及びグループ会社の実施事業をご紹介する冊子です

おひさま進歩エネルギー 新社屋へ移転しました！

2022年3月、おひさま進歩エネルギー(株)及び関連会社は、8年間過ごした飯田市旧飯田測候所を離れ、飯田商工会議所県支所1階へ移転しました。3月22日(火)から、新事務所での業務が始まっています。



新事務所は、飯田商工会議所県支所 1 階

旧飯田測候所は、1922年に建てられた気象庁の観測拠点。現在は飯田市の公共施設で、建物は国登録有形文化財に指定されていました。2014年、「測候所を環境学習の拠点に」という市の方針のもと、当社が指定管理者に選定され、測候所内の一部を、会社事務所として利用してきました。

2022年3月で指定管理者契約が満了すること、社員数が増えて事務所スペースが手狭になっていたこともあり、社屋の移転を決断し、1年以上かけて、移転先の検討を進めてきました。

新事務所となった飯田商工会議所県支所は、飯田市県地区にあり、旧飯田測候所から歩いて約20分。JR県駅や県小中学校にもほど近く、飯田市のシンボル・風越山が一望できる落ち着いた環境です。無人化されていた1階事務所や和室を改修して、3月に社員総出で引越しを行いました。

これを機会に社員一同、地域のエネルギー会社としてさらに皆様のご愛顧を得られますよう努めてまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

【新事務所】 ※電話番号、FAX番号は変更ありません

〒395-0802 長野県飯田市県下茶屋2242-2

アクセス：JR県駅より徒歩5分

飯田商工会館（高速バス終点）より徒歩15分

・旧飯田測候所の空撮



飯田市橋北地区の皆さん、8年間お世話になりました！



新事務所が入居する飯田商工会議所県支所



事務所はワンフロアで広々

移転した関連会社

おひさまエネルギーファンド株式会社
おひさまエネルギーファンド3号株式会社
おひさまグリッド3株式会社
おひさまグリッド4株式会社
おひさまグリッド5株式会社
おひさま進歩9号株式会社
おひさま進歩10号株式会社
おひさま進歩11号株式会社
野底川市民発電株式会社
一般社団法人飯田自然エネルギー大学

【野底川小水力発電事業】

いよいよ着工、飯田市地域環境権条例事業に認定

おひさま進歩エネルギーの子会社「野底川市民発電株式会社」が飯田市野底川で計画してきた小水力発電所。最初の調査から足掛け4年を経た2022年1月26日、安全祈願祭・起工式を建設予定地で開催、いよいよ工事が始まりました。

式には、施主である野底川市民発電、施工を担う地元の建設業者・神稲建設、地権者である飯田市野底財産区、飯田市、上郷地域まちづくり委員会など、地域関係者も出席。エネルギーの地産地消の実現に向けて、発電所が無事完成することを祈願しました。

2021年、本事業に166名の出資者の皆さまから合計1億5千万円のご出資をいただきました。2023年2月の稼働に向けて、着実に工事を進めていきます。

2022年3月、「飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例」（通称：地域環境権条例）の認定審査会が開かれました。慎重な審査の結果、野底川小水力発電事業は、地域公共再生可能エネルギー活用事業（第22号）として認定を受けました。

この条例は自治会など、市内の地縁団体が取り組む再エネ事業に対して、行政や有識者が審査・助言する取り組みです。今回、地元のまちづくり委員会とともに事業計画を提出。売電収入の一部を寄付することで、野底山森林公園の整備を進め、更に魅力的な存在となることを目指しています。

なお、認定式は新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、実施される予定です。



野底川小水力発電所の起工式

【野底川小水力発電所】

- 最大出力：340kW
- 最大取水量：0.55m³/s
- 有効落差：79.8m
- 想定年間発電量：2,120MWh
- 想定年間売電収入：6,150万円

■ お ひ さ ま 進 歩 N E W S

■「信州屋根ソーラー認定事業者」に認定

長野県は「2050年ゼロカーボン」達成に向けて、地域と調和した太陽光発電の設置を進めようと「すべての屋根に太陽光を」を目標に、屋根ソーラー普及を推進中。この事業の認定事業者に、弊社も登録しています。個人で設置を希望する方、共同購入（グループパワーチョイス）で安価にパネルを購入できるようにする取り組みを支援していきます。

長野県「信州の屋根ソーラー普及事業」について、詳しくは県サイトをご覧ください。

www.pref.nagano.lg.jp/zerocarbon/yanesolar



■自治体ゼロカーボン化を支援します

長野県の「気候危機突破宣言」や「ゼロカーボン戦略」、国の「2050年カーボンニュートラル宣言」を受けて、長野県内の自治体では脱炭素化に向けた計画づくり、再エネ導入の調査事業の要望が増えています。

今年は県内4町村から、計画策定や調査事業の相談をいただき、支援を準備しています。各町村での再エネ導入や建築物ゼロエネ化、EVシフトなどを通じて、より豊かで暮らしやすい地域をつくるため、支援していきます。



昨年度の小水力発電の調査事業

■ 山 本 ソ ー ラ ー シ ェ ア リ ン グ 発 電 中 ！

2021年6月から発電開始した「山本ソーラーシェアリング」は、飯田市立山本小学校の近くにあります。

ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）とは、CO2ゼロの電気をつくるソーラーパネルの下で、農業も一緒に行い、おひさまのエネルギーを発電と農業でシェアするものです。

太陽光パネルの間に適切な間隔をとることで、畑の作物にも生育に十分な光が届きます。

発電事業者から見ると「農地を発電に使うための許可、背の高い架台のため強度を確保すること、営農を継続すること」など、従来の野立て発電所よりも設置に向けたハードルはあります。

しかし、ソーラーシェアリングは農業に加えて売電収入も追加になること、温暖化防止に役立つという魅力があることで、そのままでは手放され荒廃してしまう耕作地を守り、「自然エネルギー×農業」による付加価値の高い新たな農業を展開できます。

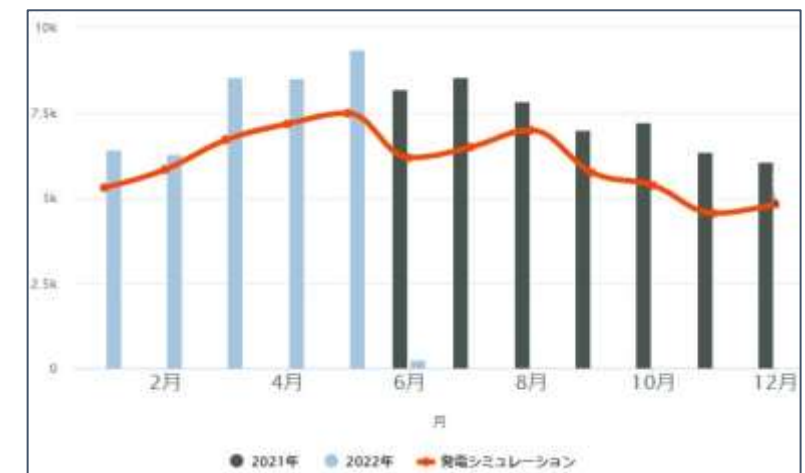
また、平地の少ない日本では、農地の上を有効利用する手段とも言われています。

パネル下では飯田市山本の農業法人・七久里農園により、ネギが定植されています。

1年間の発電実績は、合計90,362kWh。設置前の発電シミュレーション値と比較すると、毎月予想値を上回り、順調な発電状況です。

おひさま進歩エネルギー初のソーラーシェアリング事業。今後も発電状況と、農作物の生育を丁寧に見守っていきます。

おひさまを分け合った七久里農園さんのネギも、きっとおいしいことでしょう！



山本ソーラーシェアリング発電実績

飯田自然エネルギー大学 第3期

地域主導型再生可能エネルギー事業の起業者育成を目指す飯田自然エネルギー大学（学長：諸富徹教授／京都大学大学院経済学研究科）は、第3期生のカリキュラムが続いています。

5月22日、23日、おひさま進歩エネルギーの新事務所会議室で、第16回授業が開催されました。22日は、山下紀明先生（認定NPO法人環境エネルギー政策研究所主任研究員）が「地域主導型再エネ事業の立上げと地域の合意形成」と題して講義。国内外の再エネ導入状況、再エネ規制条例や訴訟事例の分析を聞きました。グループワークは地域へのメガソーラー立地を例に、事業者、賛成派・反対派の住民、行政職員などの役割に分かれて、ロールプレイングを交えて議論を深めました。

23日は、中山琢夫先生（千葉商科大学基盤教育機構専任講師）を迎えて「地域の再エネ事業主体、担い手」



第16回授業の様子

をテーマに、再エネ転換が進むドイツで地域事業の担い手であるエネルギー協同組合とその変化、日本版シュタットベルケについて学習しました。

2020年11月にスタートした第3期は、残すところ2回。7月の最終授業では、受講生19名が自身の事業計画を発表します。

なお、新たな第4期生は今夏に募集し、今年秋の開講を目指しています。

「これから再エネ事業に携わりたい」「自分の地域で事業体を立ち上げたい」「すでに事業に関わっているが学び直したい」とお考えの皆さん、エネルギー大学で一緒に学びませんか？



■ 春休み子ども寺子屋「ひがしの」

3月18日、飯田市東野公民館が企画した「子ども寺子屋“ひがしの”」で環境学習を行いました。飯田まちづくり電力(株)の地域貢献として、地域の子もたちに提供する環境学習プログラムです。東野地区の小学生や保護者50人に、SDGsと地球温暖化、CO2の発生原因などを伝えて、日々の生活の中で取り組める省エネを考えました。



■ 飯田風越高校「課題研究」

4月22日、飯田風越高校国際教養科2年生の「課題研究」で講義を行いました。社会人の講義を参考に生徒自身で研究課題を決めて、1年かけてレポートをまとめます。「地球温暖化を防止する 自然エネルギー事業による地域づくり」と題して、温暖化の現状、小規模分散型再生エネルギー事業の意義、ウクライナ情勢の影響による燃料価格の高騰について紹介しました。



■ 水防演習でスフィア展示解説

5月23日、飯田市川路で水害や土砂災害を想定した「天竜川上流総合水防演習」が国や県、地元自治体、消防団など1000人が参加して行われました。弊社は市から委託を受けて、地球温暖化の現状、その影響を紹介する展示ブースを設置。デジタル地球儀「スフィア」で気温変化や将来予測の映像を上映して来場者に見ていただきました。

■ おひさまスタッフ紹介



新たに加わった蓬田、北原、桜井(左より)

今春、新たに社員3人が加わりました。桜井栄一は今年3月、32年ぶりに故郷飯田へUターン。おひさまモニター保守やシステム開発を担当します。北原みちるは、地元高校を卒業して新入社員として入社。自治体ゼロカーボン化支援、環境学習を担います。蓬田裕一は北海道生活を経て、2年ぶりにおひさま進歩エネルギーへ復帰。電源開発や自治体ゼロカーボン化支援を担当します。

頼もしい新メンバーと一緒に、力を合わせて事業を進めていきます。



おひさまエッセイ

日経新聞に、3月に決算報告を迎える株主総会で、ニッポン株式会社の大株主でもある世界の資産運用会社ブラックロック(資産運用規模10兆ドル)の議決権行使に注目が集まるとの記事があった。温室効果ガス排出のネットゼロなどESG(環境・社会・企業統治)関連の提案に関心が集まる中、同社の気候変動関連提案について「21年より相対的に少ない支持になるだろう」という記事が載っていた。その中身は大いに注目に値する事柄であり、政府以上に影響力を示す民間金融会社の影響力に今更ながら驚異を感じる。

それはさておき、その記事の前ページに掲載された1面広告が、世界のエクイティファンド、ブラックストーンのものであったこと。前回の米国大統領選にあって、トランプ陣営(共和党)を応援したのが、ブラックストーン。バイデン陣営(民主党)を応援したのが、ブラックロックだったことを思い出した。両者はその名に「ブラック」がつくように、同根の企業である。あらゆるモノが金融商品化(二酸化炭素の排出権しかり)する世界において、金融機関による環境・社会の支配にも注目していく必要があると感じたところである。

おひさま進歩エネルギー(株)取締役 上沼俊彦



おひさま進歩エネルギー株式会社

〒395-0802 長野県飯田市鼎下茶屋2242-2(飯田商工会議所鼎支所1階)

T E L 0265-56-3711、F A X 0265-56-3712

メール info@ohisama-energy.co.jp H P http://ohisama-energy.co.jp/